

(別記)

2019 年度埴町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

埴町の農業は、二つの山系に挟まれた久慈川、川上川流域の標高200m前後の平坦地と標高700mまでの山間高冷地の耕地に、水稲・畜産・野菜の複合経営により営まれている。農作物は水稲、きゅうり・トマト・いんげん等の野菜、特産物のこんにゃく・花き等がある。全水田の約半分で水稲が作付されているが、米価下落等により所得減少が続いているため、低コスト栽培や収益性の高い転作作物の生産が課題となっている。

農家戸数の90%が兼業農家で、一戸あたりの水田面積は少なく、圃場区画も小さいことから、土地利用率低く、土地利用集積も進まない状況である。また、農業者全般に高齢化が進んでおり、かつ後継者が少ない。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産及び適地適作の推進を図るとともに、安全・安心の米作りのため、有機栽培・特別栽培・エコファーマーによる作付けを推進する。併せて、低コスト稲作を実現するため、水稲直播栽培の普及拡大を積極的に進める。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

畜産粗飼料等の自給率向上の動きから、飼料用米の生産は増加している。産地交付金を活用し、生産性向上等の取組として多収品種の導入による収穫量向上、低コスト生産栽培技術の確立、飼料用米の推進と併せてわら利用による耕畜連携の取組で地元畜産農家との需給契約、収穫体制の整備を図る。5年後には全水稲面積の約1割での導入を図る。

イ 米粉用米

生産者と実需者との連携強化、拡大に向け推進を図る。

ウ 新市場開拓用米

生産者と実需者との連携強化、拡大に向け推進を図る。

エ WCS 用稲

水稲を生産しながら需給調整可能なため、農地の有効活用として推進を図る。また、産地交付金を活用し、収穫量向上、直播栽培や機械の共同利用による生産性向上等の取組に対する支援を行うことにより、生産拡大を推進する。

オ 加工用米

生産者と実需者との連携強化、拡大に向け推進を図る。

カ 備蓄米

生産者と実需者との連携強化、拡大に向け推進を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については、消費者ニーズに対応した優良品種の導入と品質向上を図り、直販等の販売をしていく。飼料作物については耕種農家と畜産農家の連携を図り、自給体制の確立を目指していく。

併せて、畜産のコスト削減や水田の有効活用のため、水田放牧の取組に対する支援を行うことにより、耕畜連携の取組面積拡大の推進を図る。

(4) そば、なたね

水田の有効活用としてそば・なたねの作付を推進し、産地交付金を活用して優良品種の導入と排水対策による品質向上を図り、直販等の販売をしていく。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

①地域振興作物（いちご、きゅうり、トマト）

本町の主要品目であるいちご、きゅうり・トマトにおいて産地交付金を活用して生産拡大を図る。また、出荷時期が集中している現状から、長期出荷のための施設化を促進し、年間を通して安定した生産・出荷体制の確立を目指す。

②野菜

出荷時期が集中している現状から、長期出荷のための施設化を促進し、産地交付金を活用して年間を通して安定した生産・出荷体制の確立を目指す。

③地域振興花き（ダリア、カラー）

本町は花きの生産が盛んであり、その中でも地域振興作物であるダリアについては町の花として推進している。カラーについては花き市場にて需要が高まっていることから産地交付金を活用し、生産拡大による経費を支援することで生産者数及び出荷量を拡大させ、さらなる振興を図る。

④花き・花木

本町は花の町として宣伝しており、地域振興花き以外の花き・花木も転作作物としての推進を図り、生産者数及び出荷量を拡大させ、さらなる振興を図る。

⑤果樹

町内では、りんご、うめ、かき等の生産が行われており、直売、道の駅などで好評を得ている。

今後、生産者数及び出荷量を拡大させ、さらなる振興を図る。

⑥雑穀

町内では、えごまの生産が行われており、直売、道の駅などで好評を得ている。
今後、生産者数及び出荷量を拡大させ、さらなる振興を図る。

⑦その他作物

町内では、こんにゃくいも、小豆などの生産が行われており、直売、道の駅などで好評を得ている。

生産者数及び出荷量を拡大させ、さらなる振興を図る。

(6) 畑地化の推進

必要に応じて拡大に向け推進を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 前年度の作付面積 (ha) | 当年度の作付予定面積 (ha) | 2020年度の作付目標面積 (ha) |
|-----------|------------------|--------------------|-----------------------|
| 主食用米 | 502.3 | 497 | 483 |
| 飼料用米 | 30.4 | 33 | 34 |
| 米粉用米 | 0 | 0.2 | 1 |
| 新市場開拓用米 | 0 | 0.2 | 1 |
| WCS用稲 | 10.8 | 12.5 | 13 |
| 加工用米 | 0 | 0.2 | 1 |
| 備蓄米 | 0 | 1 | 2 |
| 麦 | 0 | 0.2 | 0.5 |
| 大豆 | 0.1 | 3.5 | 4 |
| 飼料作物 | 40.6 | 47 | 49 |
| そば | 0.9 | 1.5 | 2 |
| なたね | 0 | 0.2 | 0.5 |
| その他地域振興作物 | 44.6 | 49.0 | 53.1 |
| トマト | 1.0 | 1.3 | 1.5 |
| きゅうり | 2.5 | 3.3 | 3.5 |
| いちご | 1.2 | 1.4 | 1.5 |
| ダリア | 0.7 | 1 | 1.7 |
| カラー | 0.8 | 1 | 1.3 |
| その他野菜 | 20 | 21 | 22 |
| 花き・花木 | 6.5 | 12 | 13 |
| 雑穀 | 1 | 2 | 2.1 |
| 果樹 | 0 | 5 | 5.5 |
| その他 | 0.6 | 1 | 1 |

4 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 用途名 | 目標 | 現状値 | 目標値 |
|----------|--------------------------------|------------------|-------------------------------|----------------------|----------------------------------|
| | | | | (2018 年度) | (2020 年度) |
| 1 | 飼料用米 (基幹作物) | 新規需要米助成 | 生産性向上等の一定の 取組の作付面積 労働時間 | 30.35ha 28.3h/10a | 34ha 26.1h/10a |
| 1 | WCS 用稲 (基幹作物) | 新規需要米助成 | 生産性向上等の一定の 取組の作付面積 労働時間 | 10.74ha 26.8h/10a | 13ha 20.8h/10a |
| 2 | そば (基幹作物) | そば振興助成 | そばの作付面積の 1等比率 | 0ha 0% | (2019 年度目標) 1.5ha 1等比率 40% |
| 3 | ダリア (基幹作物) | 地域振興花き助成 | 作付面積 | 0.67ha | 1.7ha |
| 3 | カラー (基幹作物) | 地域振興花き助成 | 作付面積 | 0.77ha | 1.3ha |
| 4 | トマト(ミトマト・加工用含む) (基幹作物) | 地域振興野菜助成 | 作付面積 | 0.91ha | 1.5ha |
| 4 | きゅうり (基幹作物) | 地域振興野菜助成 | 作付面積 | 2.48ha | 3.5ha |
| 4 | いちご (基幹作物) | 地域振興野菜助成 | 作付面積 | 1.11ha | 1.5ha |
| 5 | 野菜・花き・雑穀・その他 (基幹作物) | 地域振興作物助成 A | 作付面積 | 8.31ha | 9ha |
| 5 | 野菜・花き・果樹・雑穀・そ その他 (基幹作物) | 地域振興作物助成 B | 作付面積 | 3.93ha | 4.5ha |
| 6 | 飼料用米の生産ほ場の 稲わら(基幹作物) | わら利用 (耕畜連携助成) | 取組面積 | 5.27ha | 12ha |
| 7 | 飼料作物 (基幹作物) | 水田放牧 (耕畜連携助成) | 取組面積 | 3.12ha | 4.5ha |

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり